

## 甲状腺の病気

甲状腺は首の前にある臓器で、甲状腺ホルモンをつくっています。甲状腺ホルモンは全身の臓器に作用し、その臓器の働きを盛んにします。また、脳と密接な連携をとり、ホルモンの量が一定となるような機能があります。

甲状腺の異常は6から10人に一人の確率でいるといわれています。しかし、症状が人によってかなり違うこと、検診の項目に含まれていないことなどから、なかなか発見されないのが特徴です。

甲状腺の病気は女性に多く、大きく分けて働きの異常と形の異常があります。働きの異常のうち、ホルモンが過剰となる病気にバセドウ病があります。これは甲状腺にホルモンをつくらせる物質が異常に増えることが原因で、動悸、手のふるえ、発汗、不眠などの症状が出ます。治療は基本的に薬の内服ですが、手術や放射線治療が必要となる可能性もあります。逆にホルモンが不足する病気には橋本病があります。これは甲状腺に対する抗体がつくられ、甲状腺が炎症をおこすのが原因で、むくみ、寒がりや便秘などの症状が出ます。他にストレスなどでも甲状腺の働きが悪くなる可能性があります。治療はホルモン剤の内服です。

形の異常には全体的な異常と部分的な異常があります。全体的な異常はホルモンの異常によって起こることが多く、超音波で経過をみます。部分的な異常には腺腫（せんしゅ）と呼ばれる良性のものと、癌やリンパ腫と呼ばれる悪性のものがあります。悪性であれば手術や放射線治療が必要となります。また、どちらか判断がつかない場合には核医学検査（注射した薬の集まりかたで判断する）や生検（甲状腺を刺して病気の一部を取り顕微鏡で観察する）を受けて頂くか、外来で嚴重に経過を見させていただきます。

病院にかかってもなかなか体調がよくなりません、首がはれている気がする方、親戚に甲状腺の病気がある方、これから出産を予定されている方などは、是非一度甲状腺の検査を受けてみてください。

日本医学放射線学会認定専門医  
川上 剛 先生